

茨城支部ニューズレター令和7年1月26日号

令和6年度第1回公開講座・第2回資格更新研修会が以下の通り開催されました。

1. 日 時：令和7(2025)年1月26日(日) 13:30～16:40
  2. 会 場：Zoomによるオンライン開催
  3. テーマ：5歳児健診の最新情報  
講 師：小枝 達也先生(鳥取県立総合療育センター)
  4. 参加者：96名(会員：78名、一般：18名)
  5. 内 容
- 5歳児の特徴  
身体発育、運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達、および遊びの発達について、それぞれの特徴と着眼点。
    - ・ 社会性の発達においては、「布置の力」(見通しを持つ力)が獲得される時期である。
    - ・ 遊びの発達においては、友人関係を維持するために優先順位を譲ることができるようになるが、ASD児はこれが難しい。
  - 5歳児健診の意義  
5歳児健診では、精神発達の状況、言語発達の遅れ、育児上問題となる事項などを評価し、発達障害などの心身の疾患を早期発見する。  
これらは3歳児健診では早すぎて、診断はかなりはずれるが、一方で学齢期に気づくのでは遅い。  
5歳児健診で気づき、事後フォローとして気づきを深めたり指導を受けたりすることが重要となる。  
ただし、限局性学習症(学習障害)についての診断は5歳児健診では困難である。
  - 5歳児健診の体制  
実施年度に満5歳となる幼児(標準的には4歳6か月～5歳6か月)を対象とし、原則として集団健診方式で行われる。市町村が実施し、国から一人五千円の補助が出る。  
健診の流れ、問診項目、医師の診察・所見・判定等については、「5歳児健康診査マニュアル」(子ども家庭庁HP、日本小児保健協会HPからダウンロード可能)に詳細が載っている。併せて、保護者向けの問診票と医師向けのガイダンスが記載されている「健やか子育てガイド」も確認すると良い。  
健診で何らかの所見が認められた場合、単に「様子を見ましょう」と言って終わらせることはしない。医療機関や福祉等の支援・相談(療育)を紹介する。  
また、睡眠覚醒習慣やメディアとの付き合い方など、基本的な生活習慣に関する啓発の機会となることが期待される。
  - フォローアップ体制について  
地域のリソースを活用した支援体制の構築が必要である。その際、保健、医療、福祉、教育の関係者が連携することが求められる。  
児童発達支援センターは、診断を受けた児の療育にとどまらず、診断を受けていない「気づき」の段階にある子どもや保護者の相談に応じていく機能が期待されている。

5歳児健診は子どもの発達過程における切れ目のない支援を考える上で重要であり、また学齢期の子どもの生活・行動にも大きな影響が認められることを学びました。健診やフォローアップにおける臨床家の役割を心に刻み、今後の相談支援を行って参りたいと思います。

研修会の開催にあたりご尽力を賜りました皆様方に、感謝申し上げます。

(文責：中島 亜砂美)

<令和7年度第1回資格更新研修会のお知らせ>

テーマ：WISC-Vによる具体的支援ケースにどう対応するかー

講 師：大六 一志先生(一般社団法人日本臨床発達心理士会茨城支部支部長)

日 時：2025年5月11日(日) 13:40～16:50

会 場：土浦生涯学習センター 中講座室

\*同日13時より令和7年度茨城支部総会を開催いたします。詳細につきましては、3月末に郵送されました往復はがきをご覧ください。